

黙示のページ

横光利一

青空文庫

終始末期を連続しつつ、愚な時計の振り子の如く反動するものは文化である。かの聖典黙示の頁に埋れたまま、なお黙々とせる四騎手はいずこにいるか。貧、富、男、女、層々とした世紀の頁の上で、その前奏に於て号々し、その急速に於て驀激し、その伴奏に於てなお且つ奔鬪し続ける、黙示の四騎士はこれである。もしも黙示の彼らが、かかる現前の諸相であると仮定したならば、彼らの中の勝者はいずれであるか。曾て敗北せる者は貧であつた。女性であつた。今やその隠忍から擡頭せるものは彼らである。勝利の盃盤は特権の篡奪者たる富と男子の掌中から傾いた。しかし吾々は、肉迫せる彼ら二騎手の手から武器を見た。彼らの憎悪と

怨恨と反逆とは、征服者の予想を以て雀躍する。聽て自由と平等とはその名の如く美しく咲くであろう。その尽きざる快樂の欣求を秘めた肺腑を持って咲くであろう。四騎手は血に濡れた武器を隠して笑うであろう。しかし我々は、彼らの手からその武器を奪う大いなる酒神の姿を何処で見たか。再び、彼らはその平和の殿堂で、その胎んだ醜き伝統の種子のために開戦するであろう。彼らの武器は、彼らのとるべき戦法は、彼らの戦闘の造った文化のために益々巧妙になるであろう。益々複雑になるであろう。益々無数の火花を放って分裂するであろう。かかる世紀の波の上に、終にまた我々の文学も分裂した。

明日の我々の文学は、明らかに表現の誇張へ向って進展するに

相違ない。まだ時代は曾てその本望として、誇張の文学を要求したことがない。そうして、今や最も時代の要求すべきものは、誇張である。脅迫である。熱情である。嘘である。何故なら、これらは分裂を統率する最も壮大な音律であるからだ。何物よりも眞実を高く捧げてはならない。時代は最早やあまり眞実に食傷した。かくして、自然主義は苦き眞実の過食のために、其尫大な姿を地に倒した。嘘ほど美味なものは無くなった。嘘を蹴落す存在から、もし文学が嘘を加護する守神となつて現れたとき、かの大いなる酒神は世紀の祭殿に輝き出すであろう。嘘とは恐喝の声である。貧、富、男、女、四騎手の雑兵となつて渦巻く人類からその毒牙を奪う叱咤である。愛である。かかる愛の爆発力は同じき理想の

旗のもとに、最早や現実の実相を突破し蹂躪するであろう。最早
懷疑と凝視と涕涙と懷古とは赦されぬであろう。その各自の熱情
に従つて、その美しき叡智と純情とに従つて、もしも其爆發力の
表現手段が分裂したとしたならば、それは明日の文学の祝福すべ
き一大文運であらねばならぬ。そうして、明日の文学は分裂する
であろう。大いなる酒神は、かの愚な時計の振り子の如く終始末
期を連続しつつ反動する文化を、美しく平和の歴史の殿堂に奉納
するであろう。今や明日の文学は、その終局の統率的使命を以て、
健康に剛健に、朗々として政治を併呑しなければならぬ。黙示
の頁を剥奪すべき勇敢なる人々は、大いなる突とっかん喊かんの声を持たね
ばならぬ。

青空文庫情報

底本：「日本の名随筆 別巻100 聖書」作品社

1999（平成11）年6月25日第1刷発行

底本の親本：「定本 横光利一全集 第一四巻」河出書房新社

1982（昭和57）年12月

初出：「読売新聞」

1924（大正13）年1月21日

入力：加藤恭子

校正：門田裕志、小林繁雄

2005年5月3日作成

2014年1月17日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

黙示のページ

横光利一

2020年 7月12日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>